

東海労名古屋地本第35回定期大会成功裡に終わる！



JR東海労名古屋地本は7月6日、名古屋市牧野コミュニティセンターにおいて第35回定期地本大会を開催し、昨年の大会以降の取り組みの総括と向こう一年の闘う方針を確立してきました。



松山委員長は「この一年間の皆さんの奮闘に敬意を表するとともに、いまだにJR東海労を壊そうとする輩達を許すことは出来ません。この6月にはあいち平和映画祭があり、これまで通り支援団体として名を連ね平和の取り組みを進めています。JR東海労は労働者支援相談センターを設立し、幅広い労働者からの支援相談体制を創っています。地本としても相談体制を創り準備をしてきました。組織の強化拡大のためあらゆる人達との連携を深めていかなければなりません。名古屋地本としても、本部からの提起を受け志を同じくする「JRひがし労」との連携、連帯を創っていきます。また、地域からリニア建設反対の闘いを進めておられる方々の協力の下、リニア学習会を開催してきました。これを通じてさらに今後も情報の共有、連帯の強化につなげていきます。この大会をもって、より地域に根ざして活動を展開して頂くため、鈴木時久さん、加藤誠二さんの二人を静岡地本へと快く送り出すことになりました。これからも共に運動を創っていきます。また、JR東海労名古屋地本の二代目委員長であった中村博之さんには、名古屋地本の顧問を引き受けて頂く事となりました。今後も指導をお願いします。会社からの「業務改革」という名のもとの徹底した効率化に反対し、労働者を守っていく闘いを組合員一人一人が置かれた場所で自信をもって、この一年間も闘っていきましょう。」と挨拶を述べました。

祝電・メッセージ

- JR東海労新幹線地本
- JR東海労静岡地本
- JR東海労新幹線関西地本
- 東濃リニアを考える会代表 原 重雄 様
- 春日井リニア新幹線を問う会事務局長 川本正彦 様

淵上 中央執行委員長挨拶

松山委員長を先頭に奮闘されている名古屋地本の皆さんに敬意を表します。当時、JR総連山口委員長から「2029年にJR東海労とJR西労は解散する。これは上で決まったことであり絶対だ。」と言われ、当然私はこれを拒否をした。その時JR西労の前川委員長はそれを受け入れた。JR西労の中央執行委員会見解(7/2付)が出された。何と情けないことかと思った。JR西労の組合員は(解散を)知らされていないのではないか。JR西労本部は、真実が明らかになるのを恐れ、組合員を津崎裁判に行かせないようにしている。しかし、真面目に真実を求めるJR西労組合員は、津崎裁判に傍聴にきている。JR西労の組織現実が表れている。我々は、さらに様々な人達との連帯を通じてJR東海労の組織の強化と拡大を勝ち取ろう。



前田 JS労書記長挨拶

名古屋地本の皆さんに敬意を表します。JS労は益々組織拡大していることをご報告します。津崎裁判の闘いの一環として、「Don't lie」Tシャツを作成しました。皆さんと共にこれを着て津崎裁判に参加をしましょう。闘いなくして、組織拡大は勝ち取れません。この間、JS労はサービックス会社に対して、様々な要求を突きつけ勝ち取っています。今後は、年間休日増の闘いを推し進め、組織の強化拡大に邁進していきます。共に奮闘しましょう。



また、名古屋地本林OB会長より地本OB会も盤石な体制の下、松山委員長をしっかりと支え東海労運動の更なる強化のため奮闘していくことが述べられました。

質疑は9名の発言があり、職場要求、JRひがし労との連携について、地域における繋がり、参議院選挙に向けた取り組み、関連労組との連携等々積極的な発言を受け、御辺地本書記長からは出された要求については早急に会社への申し入れを行うとともに、具体的な取り組みを展開していくことを総括答弁し、全ての議案について全体で承認され大会は成功裡に終了しました。

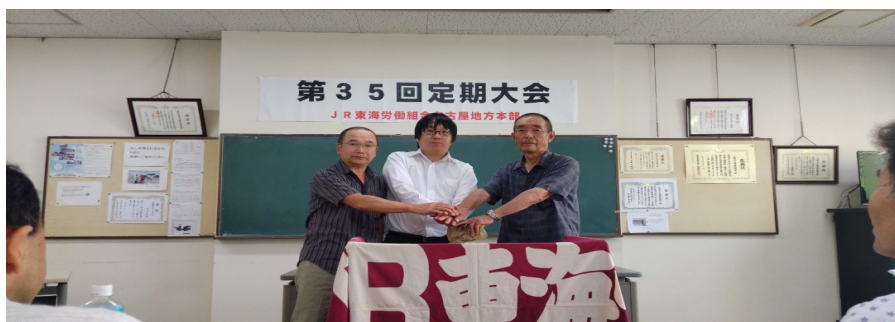


加藤誠二さん

静岡地本でも更なる奮闘を！



鈴木時久さん



東海の地に労働運動の炎を赤々と！
林OB会長 松山委員長 中村顧問